

[I] 次の文の(1)~(15)に入れるのに最も適当な語句を下記の〔語群〕から
選び、その記号をマークしなさい。

地球の長い歴史の過程で、地表は複雑な起伏を示すようになった。このような
地形の大わくをつくる(1)は地球が生れてから約4回あったとされる。最も
古い(1)によって、先(2)時代に形成された山地は、今ではかたい岩石
からなる、低平で、起伏の少ない陸塊となっている。これを(3)と呼ぶが、
なかでもバルト海沿岸やカナダの(4)地方は典型的な(5)の地形を示し
ている。古い地塊がその後ほとんど変動をうけず、ほぼ水平な地層を保っている
大規模な平地になっている場合には(6)と呼ばれ、その代表的な例はソ連の
(7)平原や北アメリカの(8)などである。またアフリカ高原や南アメリ
カの(9)高原には(10)と呼ばれる、平坦面の周囲が急崖でとりかこまれ
た台地地形が見られるが、これらの高原はウェゲナーの(11)説によると、ア
ラビア半島やデカン高原などとともに、もとは(12)大陸と呼ばれていたもの
が分離、移動したものとされる。

古生代の2回の(1)により、(3)を取りまくように形成されたのが、
(13)であるが、これもソ連のウラル山脈や北アメリカの(14)山脈のよう
に今ではかなり低くなっているものが多い。しかし(13)に属する山脈のなか
にも、その後の隆起運動や断層運動によって、今でも海拔4,000 m以上の高度を
保っているものもある。チベット高原北縁の(15)山脈やその北方のテンシャ
ン山脈はその例である。

〔語 群〕

- | | | | |
|---------|----------|-----------|----------------|
| (ア) 白亜紀 | (イ) ブラジル | (ウ) 新期造山帯 | (エ) アトランティス |
| (オ) 卓状地 | (カ) ロッキー | (キ) ゴンドワナ | (ク) 東ヨーロッパ |
| (ケ) 楯状地 | (コ) アルタイ | (ク) アパラチア | (シ) ローレンシア |
| (ス) 準平原 | (セ) 構造平野 | (ソ) カンブリア | (タ) 古期造山帯 |
| (チ) 大平原 | (ツ) クンルン | (テ) シベリア | (ト) 安定陸塊(安定陸地) |
| (ナ) ケスタ | (ニ) 洪積台地 | (ヌ) 造山運動 | (ネ) 大陸移動(大陸漂移) |

1984年北アメリカ大陸自然誌

〔IV〕 北アメリカ大陸に関する次の文の(1)~(10)に入れるのに最も適当な語句を解答欄に記入しなさい。

ラブラドル高原から(1)湾を囲むように、五大湖の北部を経て北極海諸島に連なるなだらかな台地状の大地形は(2)^橋状地と呼ばれる。この橋状地は先カンブリア代の造山運動によって生じ、古生代以後は緩慢な造陸運動だけを受けた、いわゆる(3)陸塊の一つである。

大西洋岸寄りに、なだらかな地形をもって横たわる(4)山脈は(5)代の^{しゅう}褶曲山脈が準平原化したあと再び隆起したものである。北部にはいくつかの横谷があり、交通路として利用されてきたが、中でも(6)谷は、1825年にエリー運河が開さくされたことにより、内陸部の開発に重要な役割を果たした。

(4)山脈の東部から南部にかけては、海岸平野が連なる。メキシコ湾岸一帯の平野とその沖合の大陸棚は石油と(7)を豊富に埋蔵する。

ロッキー山脈以西の地域では急峻^{しゅん}で、長大な幾条かの山脈がほぼ南北方向に平行して走り、その間には多数の高原や盆地がみられる。サンフランシスコの東方、サクラメント、サンホアキンの両川が貫流する長大な(8)もその一つで、ここでは恵まれた気候を利用しての果樹、野菜、米、綿などの栽培が盛んである。

これら四つの地域に囲まれた大陸中央部には広大な平原が連なっている。ロッキー山脈に沿う、やや乾燥した(9)と呼ばれる高位平原では、牧畜業が発達しており、その東側のやや湿潤な草原、プレーリーでは(10)ととうもろこしの栽培が盛んである。なお、(10)についていえば、ほぼ北緯40度を境にして、その南北で栽培時期が異なる。

(以上)

2009 大西海北部プレートテクトニクス

〔I〕 次の文を読んで、以下の間に答えなさい。

太平洋プレートの西縁とナスカプレートの東縁には、海洋プレートの沈み込む
場である(1)がみられる。そして(1)にほぼ平行して、太平洋プレート
の西側縁辺には弧状列島が、ナスカプレートの東縁には世界最大規模の(2)
山脈であるアンデス山脈が分布している。

大西洋の東西沿岸付近で海岸線にほぼ平行する弧状列島または山脈を探すと、北大西洋沿岸に限定されていることがわかる。北アメリカ大陸側で(3)山脈、ヨーロッパ大陸側で(4)山脈などを想定できるのである。(3)山脈、(4)山脈についてはいずれもその走向は大西洋(5)にほぼ平行する北東-南西方向を示している。

プレート境界で形成されうる陸上の大山脈は、二種類のプレートの相互作用の結果と考えられている。ところが、(3)山脈と(4)山脈に対応しうる(1)はみられず、海洋側には大陸塊も欠如しているのである。

この問題の解答をJ.T.ウィルソンが示している。次ページの図を参照してほしい。図には古生物群集の違いをパターンで表している。この古生物群集の分布から、当時の北アメリカ大陸とヨーロッパ大陸の境界が決定され(図中の破線)、その境界部に古大西洋が想定された。

図に示された時代の後に、両大陸は衝突して(3)・(4)両山脈などが形成される。この活動はカレドニア造山運動と呼ばれている。その後、(5)から溶岩が噴出し、現在の大西洋が形成されるのである。

問(A) (1)～(5)に入れるのに最も適当な語句を次の語群から選び、その記号をマークしなさい。

〔語 群〕

- (ア) 断 層 (イ) 海 溝 (ウ) 海 岸 (エ) アトラス
(オ) 褶 曲 (カ) 火成岩 (キ) 中央海嶺 (ク) アパラチア
(ケ) スカンディナヴィア

この問題について大分評定を

問(B) 下線①に該当しないものは次のいずれか。その記号をマークしなさい。なお、(1)には本文中の(1)と同じ語句が入る。

- (ア) スンダ(1) (イ) マリアナ(1) (ウ) 日本(1)

問(C) 下線②に該当しないものは次のいずれか。その記号をマークしなさい。

- (ア) 琉球弧 (イ) 東北日本弧 (ウ) 伊豆・小笠原弧

問(D) 下線③について最も適当でないものは次のいずれか。その記号をマークしなさい。

- (ア) 衝突 (イ) 沈み込み (ウ) 発散

問(E) 下線④に言う山脈群に該当しないものは次のいずれか。その記号をマークしなさい。

- (ア) グランピアン山脈 (イ) ペニン山脈 (ウ) ピレネー山脈

問(F) 下線⑤で形成された造山帯は次のいずれに含まれるか。その記号をマークしなさい。

- (ア) 新期造山帯 (イ) 古期造山帯

